

台風で稲わらが流入した水田・品種転換水田では

ろうせい

漏生イネ対策を実施しましょう！

令和2年4月10日

加須農林振興センター

昨年は、9月の台風15号、10月の台風19号の2回の大きな台風の影響で、近隣の水田から稲わらが流れ込んだ水田が多く見られました。このような水田では、こぼれ種により耕作者が作付けた水稲と別の品種の水稲（漏生イネ）が発生し、品質の低下につながる可能性があります。漏生イネは、作付品種を切り替えた場合にも発生しますので、対策が必要です。

◎漏生イネは代かき後30～40日間にわたって発生するため、①有効な除草剤の複数回散布により防除します。用水等の条件が許す場合には②2回代かきを行い、漏生イネの発生数を事前に減らして防除します。

①有効除草剤の活用 漏生イネが発生する前に散布

<考え方>有効性が確認された除草剤を複数回使用する体系処理を行います。

<方法>・1回目：代かき～田植え直後までに初期剤を散布します。

・2回目：1回目の7～10日後に一発処理剤を散布します。

・3回目（多発ほ場）：2回目の7～10日後に中期剤を散布します。

← 基本の対策

◎漏生イネに有効性が確認された除草剤例（農研機構「雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアル」を参照）

	薬剤名	使用時期	漏生イネに有効な時期	適用雑草	使用量（/10a）	使用方法	使用回数
初期剤	デルカット乳剤	植代時 （移植4日前まで）	漏生イネ発生前	水田一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、ミスガヤツリ、マツハイ、コウキヤガラ、ヘラオモダカ	500ml	植代時に原液のまま散布し混和する	1回
一発処理剤	ボデーガード1キロ粒剤	移植時 移植直後～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	漏生イネ発生前	水田一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、ウリカワ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、マツハイ、ミスガヤツリ	1kg	田植同時散布機で施用 湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ジェイフレンドフロアブル	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	漏生イネ発生前	水田一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、ウリカワ、オモダカ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、マツハイ、ミスガヤツリ	500ml	原液湛水散布又は水口施用	1回
中期剤	ナイスミドル1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し収穫60日前まで	漏生イネ発生前～始（鞘葉抽出期）	水田一年生雑草、ホタルイ、クログワイ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、マツハイ、ミスガヤツリ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	湛水散布	1回

農業使用の際は、ラベル表示を必ず確認し、飛散防止・農業使用記録の記帳に努めましょう。

2020年3月31日登録反映

②2回代かき 田植え時期が遅れる場合があるため、用水等の自由が効き、可能であれば実施

<考え方>田植え前に漏生イネを発芽させ、埋没させて田植え後の発生数を減らします。

<方法>・田植え約3週間前に入水、代かきを行い、漏生イネの種子を発芽させます。

・約3週間後、再度代かきを行い、出芽した漏生イネを埋没させます。

③手取り除草 対策を講じても発生してしまったら…

<考え方>水田に漏生イネの種子が残らないよう、種子をつける前に持ち出します。

<方法>・田植え後1ヶ月頃から出穂後2週間頃までに、田植えした位置と違う箇所が発生した漏生イネを抜き取るか地際から刈り取り、ほ場内から持ち出します。